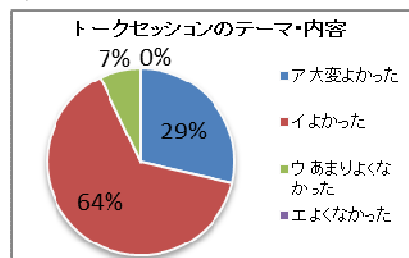


平成25年度「奈良県学校・地域パートナーシップ事業」研修会実施報告

- 1 日時 平成25年12月24日（火）13:30～16:30
- 2 会場 奈良県立教育研究所 大講座室他
- 3 参加者 県内公立小・中学校教職員、学校関係者、市町村教育委員会事務局関係職員、学校・地域パートナーシップ事業関係者等（地域コーディネーター、ボランティア、PTA関係者等） 計305名
- 4 内容
- 13:30～13:45 地域と共にある学校づくり：プレゼンテーション（人権・地域教育課）
 - 13:45～14:10 実践発表「平成24年度地域教育力推進モデル校としての取組」（田原町立北小学校）
 - 14:10～15:30 トークセッション テーマ「地域コミュニティを切り拓くこれからのかたち」
 コーディネーター：高木 和久（奈良県学校コミュニティ・アドバイザー）
 オピニオンリーダー：明島 祐見子（奈良県学校コミュニティ・コーディネーター）
 オピニオンリーダー：立石 麻衣子（奈良教育大学教育実践開発研究センター特任講師）
 - 15:40～16:30 各地域・学校別情報交流（地域の事業関係者 小学校教職員 中学校教職員 教育委員会事務局職員）

5 トークセッション概要

- 社会でしっかり生きていける子どもを育てることが大切。地域の方々は、学校を支援しようと思わないで、子どもを支援してほしい。学校コミュニティ協議会は、意思を決定する場。地域は何ができるのか、学校は何ができるのか話し合い、年に一度は成果や前年との変化をみるのが大切。（高木）
- 今、県内各小・中学校では、様々な団体や学生等と一緒に取組を進め、また、ボランティアが学校に出入りしやすいような雰囲気を作り、情報発信が工夫されている。学校は今の取組が「支援」だけで終わっていないか、「協働」になっているかなどの見直しが常に必要。（明島）
- 地域コーディネーターやボランティアのこれからのあるべき姿は、子どもの「育ち」に目を向け、その自己実現を支援すること。「子育ち支援者」として、大人が環境を整えることは必要であるが、子どもたちが様々な人とふれあい、興味・関心のある活動に参加し、子どもが主体となり、工夫して内容を充実させていく過程を通し、価値観や人生観を培っていくことが求められる。（立石）



6 各地域・学校別情報交流での意見

- 地域
 - ・各学校の取組を聞くことで、自分たちの活動の幅が広がるのを感じた。
 - ・「熟議」が大切であると思った。話し合いの記録をとりながら次に繋げていきたい。
 - ・ボランティアに自分から手を挙げる人は少ないが、コツコツと身近な人から理解を広げていくようにしている。
- 小学校
 - ・「学校を助けてもらう」のではなく、「子どもをいっしょに育ててもらう」というトークセッションでの高木先生のお言葉で、少し気持ちが楽になった。
 - ・様々な活動を通して、子どもたちの意欲を引き出すことができるようになってきた。
 - ・教職員の理解、コーディネーターの人選、教育委員会との関わりが課題である。
- 中学校
 - ・学校側から門戸を開くことが重要。学校が公開講座を開いて、地域との繋がりをつくっている。
 - ・今は、「支援」の状態。共に活動するところからスタートしなければならないと思った。
 - ・外部指導者を確保するのが難しい。
- 事務局
 - ・事業の見直しを進めながら、地域コーディネーターを育成している。
 - ・地域コーディネーターへの説明会を実施。子どもへの接し方などは、スクールカウンセラーが説明している。
 - ・「支援」から「協働」へ展開していく、機運を高める方法を模索している。



実践発表・田原町立北小学校



トークセッション



各地域・学校別情報交流

